名古屋芸術大学キャリアセンター紀要　第13号　079～098頁（2024）

ネパール人日本語学習者の特徴について
ーアンケートからわかることー

Characteristics of Nepalese learners of Japanese
－ What we can learn from a survey of Teachers and Students －

加藤　豊二　*KATO Toyoji*
（留学生別科）

1.　はじめに

近年、日本の高等教育機関および日本語教育機関で学ぶネパール人日本語学習者（以下：ネパール人学習者と表記する）が急増している。最新の日本学生支援機関（JASSO）の「2022年度外国人留学生在籍状況調査結果」によれば、ネパール人学習者数は24,257人であり、国地域別では中国、ベトナムに次ぎ世界第3位であり、全体の10.5％を占めている。10年前の2012年の調査では2,451人、全体の1.8％であったことを思えば、ネパール人学習者は、この10年で約10倍に急増している（表1）。第2位のベトナム人学習者が前年度に比較して24.4％減少しているのに対して、28.9％増加していることを考えれば、今後、ベトナム人学習者に代わり、ネパール人学習者が世界第2位の学習者数になる日も近い。

表1　2022年度 国地域別外国人留学生数上位5か国　（2022年5月1日現在：JASSO調べ）

	国　名	留学生数	%		参考：2012（平成24）年度データ		
1	中　国	103,882人	44.9%	1	中　国	86,324人	62.7%
2	ベトナム	37,405人	16.2%	2	韓　国	16,651人	12.1%
3	ネパール	24,257人	10.5%	3	台　湾	4,617人	3.4%
4	韓　国	13,701人	5.9%	4	ベトナム	4,373人	3.2%
5	インドネシア	5,763人	2.5%	5	ネパール	2,451人	1.8%
全留学生総数		231,146人		全留学生総数		137,756人	

名古屋芸術大学留学生別科は2023年度61人の留学生が在籍したが、そのうち88.5％の54人がネパール人学習者であった。近年、このようにネパール人学習者が多数を占める日本語教育機関が多いが、このネパール人学習者を扱っている論文は、管見の限り、ごくわずかしかない。また、筆者自身も2022年度に本学留学生別科でネパール人学習者に対面で教える以前は、ネパール人学習者に教えた経験がなかった。

そこで、ネパール人学習者はどのような特徴を持っているのかを、本学留学生別科所属の教員および学生へのアンケート等を通じて、明らかにする。そして、ネパール人学習者の特徴を知ることにより、今後、彼ら、彼女らに対して、どのような対応をしたほうがい

いのかを提案したい。

2.　ネパールとは

今回、急増しているネパール学習者を取り上げるが、そもそも「ネパール」という国は、どのような国であろうか。引田（2019)、外務省（2024）等からネパールの概略を述べる。

ネパールは、北は中国のチベット地区、南はインドに挟まれ、チベットとの境には世界最高峰として有名なエベレスト山及びヒマラヤ山脈がある。首都はカトマンズである。ネパールの人口は3054万7580人（2022年世銀)、面積は北海道の約1.8倍の14.7万平方キロメートルである。パルバテ・ヒンドゥー、マガル、タルー、タマン等の民族からなる多民族国家であり、多言語国家である。公用語はネパール語であるが、ネパール語を母語とする割合は全人口の約半数程度となっている。宗教はヒンドゥー教徒が81.3％を占め、その他、仏教徒9.0％、イスラム教徒4.4％である。

2008年に王政を廃止し、2015年憲法発布、連邦国家となり、2020年に正式な国家名がネパールとなる。主な産業は農業であり、国民の約60％が従事している。また、2023年の1人当たりの名目GDP（国民総生産）は1320ドルで世界166位である。日本は33,806ドルで世界34位であり、日本はネパールの25.6倍のGDPであり、ネパールと日本には大きな経済格差がある。

3.　研究課題

2023年度に名古屋芸術大学留学生別科で実際に教えられた教員および在籍していたネパール人学習者へのアンケート調査を実施し、本学留学生別科の学生の日本語教育の実態を見る。また、彼らの背景となるネパール国内での教育の実態を先行研究から見ることにより、詳しいネパール人学習者の特徴について明らかにする。そして、ネパール人学習者にはどのような対応をすればいいのかを提案する。

(1) ネパール人学習者はどのような特徴を持っているのか。

(2) ネパール人学習者は本学における日本語学習をどのように感じているのであろうか。

(3) ネパール人学習者はネパール国内ではどのような教育を受けていたのであろうか。

4.　調査の概要

4-1.　調査対象者

2023年度における本学の留学生別科の在籍者数は1年課程（5人）と2年課程（1年生20人、2年生36人）の計61人であるが、今回の調査では、2年課程2年生に対して実際に教えられた教員7人（筆者は除く）および2年課程2年生のネパール人学習者35人（2Aクラス17人、2Bクラス18人）を対象とし、2024年2月から3月にかけてアンケート調査を実施した。

そして、調査に協力していただいた教員５人およびネパール人学習者 21 人（2A クラス 13 人、2B クラス８人）のデータを調査対象とする。

調査に協力してくださった教員５人の内訳は表２のとおりである。教員は、いずれも文法または読解・聴解を担当された教員である。また、ネパール人学習者の内訳は次のとおりである。日本語能力試験N2 レベルの学習をする 2A クラス（表 3-1）と、N3 レベルの学習をする 2B クラス（表 3-2）の２つのクラスのネパール人学習者を対象とする。

表２　調査対象者（日本語教師５人）

	性別	年齢	経験年数	担当科目
①	女	50 代	20 年以上	文法
②	女	50 代	３年以内	文法
③	女	60 代以上	20 年以上	文法、読解・聴解
④	女	50 代	10 ～ 20 年	文法、読解・聴解
⑤	女	50 代	６～ 10 年	文法

表 3-1　調査対象者（2A 学生）

	年齢	性別	日本語学習歴	JLPT 合格
1	24	男性	２～３年	N3
2	23	男性	２～３年	なし
3	22	男性	２年	N3
4	21	女性	２～３年	N3
5	21	女性	２～３年	N3
6	24	男性	２～３年	N3
7	23	男性	２～３年	N3
8	26	男性	２年	なし
9	21	女性	２年	なし
10	24	女性	２年	N3
11	27	女性	２年	N3
12	24	男性	２～３年	N3
13	26	男性	２年	なし

平均年齢：23.5 歳

表 3-2　調査対象者（2B 学生）

	年齢	性別	日本語学習歴	JLPT 合格
1	21	女性	２年	なし
2	20	男性	２年	N4
3	25	男性	２～３年	N3
4	22	男性	２年	なし
5	23	女性	２～３年	なし
6	23	女性	２年	N3
7	21	男性	２年	なし
8	22	男性	２年	なし

平均年齢：22.1 歳

4-2.　調査項目

今回の調査での教員およびネパール人学習者への質問項目は、以下のとおりである。

(1) 教員への質問項目

1　担当科目（文法／読解・聴解）について

・全体的な印象（特徴）　・弱点　　・その他

2　ネパール人学習者に教えてみた感想

3　他の国出身者と比較しての感想

4　ネパール人学習者の日本語力を向上させる方法

(2) ネパール人学習者への質問項目

1　好きな科目（複数選択可）　　・その科目が好きな理由

2　得意な科目（複数選択可）　　・その科目が得意な理由

3　嫌いな科目（複数選択可）　　・その科目が嫌いな理由

4　苦手な科目（複数選択可）　　・その科目が苦手な理由

・苦手科目をなくすためにしていること

5　家での一日の勉強時間（平均）・家での勉強内容（複数選択可）

6　その他

5　調査結果と考察

5-1.　教員への質問

まず、文法担当教員へのアンケート結果から見ていくことにする。先生方のコメントをまとめると、以下のようになる。

文法

(1) 全体的な印象（特徴）

2Aクラスの学生は、積極的に発言できるが、語彙力が不足しており、言い換えができない。その原因として、初級文法が定着していないからではないであろうか。しかし、自分のことに置き換えて考えさせたり、あるいは具体的な内容であれば、学習した文型を使って文を作る「文作」もできるし、文型も覚えやすいようだ。

2Bクラスの学生も、発言、発表を好む。しかし、2Aクラス同様に、文法的な蓄積された知識が身についていない。また、文字を見て、視覚的に覚えるのではなく、耳で覚える傾向があり、オウム返しに繰り返す練習を好む「耳学習」人間ではないであろうか。

中国、韓国など東アジアの学習者は、文字を頼りに学習する学習者が多いが、ネパール人学習者は、欧米の学習者のように音声を頼りに学習する学習者が多い。会話や発表が好きなので、ネパール人学習者の特質を理解し、楽しみながら授業を進めるのが必要ではないであろうか。

(2) 弱点

全体的な印象（特徴）にもあったように、文法的な積み上げができていない。また、いわゆる文作をしても、語彙が少ないため、例文を作ることができない。

初級文法が定着していないとの指摘が出たが、これはコーディネーターである筆者の責任も大きい。本学の学部もそうだが、多くの大学が入学時に要求する日本語力のレベルは、日本語能力試験のN2 レベルである。

そのため、2 年課程の 1 年目には、N3 レベルまでに日本語力を上げておきたいという思いが強く、授業を進める進度も速く、きちんと文法項目が定着しないまま、授業を進めてしまったことが要因となり、このような結果を招いた可能性が高い。

2A クラスの学習者は、中級文型の学習をしていても、初級文法が定着していないため、中級レベルの文を作ることができない。また、語彙が少なく、言い換えができないし、抽象的な内容に弱く、想像力も弱い。

2A クラスよりレベルの低い 2B クラスの担当教員からは、語彙が少なく、文法理解も浅い学習者に文作させるのは時間の無駄だとの厳しい意見もいただいた。文作するよりも、例文を多く提示し、文型理解に深めたほうがいいのではないかとのアドバイスをいただいた。

確かに、学習した文型を使って文作させても、なかなか上手に文を作ることができず、教員が提示する例文をそのまま覚えようとする傾向が見られる。学習した文型を使って文を作ることに意味があるのにもかかわらず、その努力を怠る。あるいは、文作をしようと努力はしているが難しく、その結果、つい文作した結果である文を教えてほしいと言っている可能性もある。

聞いて耳では理解できていても、耳で覚えたことを文字と結びつけることが難しいネパール人学習者が多い。文字が滑らかに読むことができない。漢字については言うまでもないが、文字を読んで理解することが苦手なため、家で本を使い自分で勉強することができない。授業に参加せず一人で勉強することができない。一人で宿題をするのも難しい。そのため、文法の理解ができない。

非漢字圏の学習者であるネパール人学習者は、日本語の理解において、漢字、文字が大きな障害となっている。初級はまだしも、初中級以上になると、授業の理解が難しくなる。音が認識できても文字の意味が理解できないからである。スマホの翻訳アプリを使っても正しく入力できないし、入力できても候補がいくつか表示されると、どれを選択してよいのかわからない。

授業中、ネパール人学習者同士で話していることが多く、教員は「静かに聞く」ように注意することがよくある。しかし、これは、家での一人での勉強が難しいため、授業中に情報を共有しているのではないだろうか。その結果、授業中少し騒がしくなっている可能性がある。彼らにとっては、真面目に取り組んでいるがゆえに、正解を確かめる「話す」

行為を、教員に「うるさい」と注意されれば心外なのかもしれない。

(3) 日本語力を向上させる方法

それでは、このような文字が苦手なため、文法の積み上げができない、語彙が少ないネパール人学習者の日本語力を伸ばすためには、どのような方法をとればよいのであろうか。先生方からは、いろいろなアイディアをいただいた。

まず、これはネパール人学習者に限らず、語学を勉強する日本人学習者にも当てはまる方法であるが、ほめて日本語力を伸ばす。また、何回も繰り返し学習させる。勉強に限らず、何をするにも精神面は大切であり、少しでもできればほめる。ほめられて気分が悪くなる学習者はいない。また、ネパール人学習者に限らず、一度で覚えることができなければ、何回も繰り返し学習することで、文法項目の定着を図る。「努力は嘘をつかない」と言うが、学習時間に比例し日本語力も伸びると思われるので、コツコツと繰り返し、地道に学習させることは大切である。

次に、ネパール人学習者に対して、まず五十音をしっかり教育し、初期から「日本語を読むこと」を自習で促し、「日本語を聞くこと」で授業理解を深めさせたらどうかとのコメントがあった。基本中の基本である五十音をしっかり教育する。きちんとした「ひらがな」が書けるようにする。

確かに「ひらがな」には様々な形があり難しいが、きちんとした「ひらがな」が書けないと読むことができない。ネパールで「ひらがな」を習って来るが、一度身についた字はなかなか直らない。教員にとっても、ネパール人学習者の書いた「ひらがな」が読めず、テストにおいても不正解になることもある。「ひらがな」がきれいに書けないネパール人学習者は、一般的に日本語力が低い学習者が多い。

それから、ネパール人学習者に合った日本語の指導をすべきだとの提案もあった。日本に来た目的は何であるのか。また、どのような日本語を必要としているのか。実情を知り、それに合わせた学習方法を考える。

例えば、ネパール人学習者の理解力を高めるために、下記のような学習方法を提案している。①文法シラバスよりも場面シラバスで教え、できるようになることをはっきり示す。②会話力を伸ばしてやるなど、興味のあることからできることを増やしていく。③語彙力を強化し、英語訳で済ませることなく、簡単な日本語で言い換えさせていく。④全体で授業を受けることが得意そうでないので、グループワークを増やす。

2023年度の2年課程2年生は、中国人学習者が1人在籍したが、2024年度の2年課程はネパール人学習者のみなので、このようなネパール人学習者に合った、よりよい方法も探し出し、試してみるとよい。

以上、文法担当教員のアンケート結果について述べてきたが、続いて、読解担当教員へのアンケート結果について述べる。

読解

実際には、読解のみならず聴解も担当された教員へのアンケート結果であるが、ここでは学習者が最も苦手としている読解に焦点を当て、その調査結果を述べることにする。ネパール人学習者に実際に読解を教えた担当教員は、どのようなことを感じていたのであろうか。

(1) 全体的な印象（特徴）

読解に対する苦手意識、目的意識の低さを感じる。これは漢字が読めないことに起因する。ネパール人学習者は、会話のように、自信を持っていることには積極的であるが、苦手意識がある、興味のないことへの取り組みが極端に消極的である。知識不足、特に語彙力不足により、背景知識の活性化があまり望めないし、日本文化に触れるような読み物にもあまり興味を示さない。

これは、漢字が読めないことだけが原因ではなく、おそらく母国での教育が「読む文化」に関して、力を入れていないからではないかと推測する。そのため、物事を論理的に考える習慣が身についていないのではないだろうか。

(2) 弱点

上記の特徴がそのまま弱点となっている。とにかく語彙力不足である。だからと言って、そのままにしていては、読むことに関心がないままになってしまう。日本語教育では読解は必須であり、上級になればなるほどその重要度は増していく。

そこで、今後、ネパール人学習者が日本で進学、就職する上で困らないようにするには、「読む」機会を多くすることで「推測する、想像する、論理的に考える」習慣をつけることが、彼らにとって有益なのではないだろうか。

(3) 日本語力を向上させる方法

まず、読解の基礎となる文字・語彙の学習量が、授業時間を含めても少なすぎるので、文字・語彙の授業時間を増やす。この10年ネパール人学習者をはじめ非漢字圏の学習者が増加しているにもかかわらず、読解等の基礎となる文字・語彙の授業時間が少ないのは確かである。また、非漢字圏の学習者と漢字圏の学習者の文字・語彙の授業時間数が同じであるのも適切とは言えない。

理解・習得するのに多くの時間を要する文字・語彙の時間は、漢字圏の学習者よりも非漢字圏の学習者の授業時間を増加させるべきである。それから、使用テキストも、漢字圏と非漢字圏とは別の物を使用すべきである。ちなみに、本学留学生別科における「文字・語彙」の時間は週1コマ（90分）である。ネパール人学習者が中心に在籍する2年課程も、漢字圏の中国人が中心に在籍する1年課程も週1コマである。

教員が学習者達のことを「できない、できない」と言うよりは、文字・語彙の授業時間数、使用するテキストについては、教える側の問題であると言えよう。その他、少ない授業時間数を補うための学習方法も考えるべきだ。例えば、全員の携帯に漢字アプリを入れさせる等、授業時間以外にも漢字等の文字・語彙に触れる機会を多く持つことは、ひいては、ネパール人学習者の読解力向上につながるのではないだろうか。

ネパール人学習者を教えてみた感想

これまで、文法、読解と、科目毎に、全体的な印象（特徴)、弱点、日本語力を向上させる方法を述べてきたが、次に、実際にネパール人学習者を教えてみた感想について述べる。既に述べてきた特徴と重なるが、全体的な意見としては、厳しい意見が多く並ぶ。もちろん、ネパール人学習者全員が同じではないが、まとめると下記のようになる。

長所としては、ネパール人学習者は明るく、親しみやすい性格であり、おしゃべり好きな学習者が多い。また、叱られてもへこたれない精神力を持っている。ネパール人学習者はよくしゃべるため、教室の雰囲気は明るいし、人懐っこい学習者が多い。

一方、短所としては、全体的にはあまり勉強に意欲的ではない。そして、他人の力を当てにする個人主義の学習者が多く、教員との一対一の対応を好む。例えば、学生に問題をさせ、その後、全体で答え合わせをしようとすると、解答がすでに終わった学生は、教員を自分の席に来るように呼び、自分の解答は正しいのかを確認したがる。また、一人の学生からの質問に対して、教員が答えているおりには、それを聞いておらず、再度、同じ質問をしてくる学習者が多い。このように、自分のペースで勉強し、わからない点が出てきたその都度、教員に質問をするネパール人学習者が多い。クラス全体で勉強することに慣れていない印象を受ける。

また、自国の文化は大切にするが、日本文化に対してはあまり興味がない学習者が多い。これが、背景知識の獲得につながる読解の理解に影響を与えている可能性が高い。

日本語力に関しては、書くことが苦手である。例えば、ノート、プリント類に文字を書くとき90度傾けて書いたり、書き順も正しく書いている学習者はほとんどいないし、漢字の字体を構成する要素である点画の場所も適切ではない。また、語彙力が不足している。

他国の学習者と比較すると、ネパール人学習者はおしゃべり好きである。しかし、コミュニケーションは取れるものの、文法的な正確さを求める姿勢が見られない。また、自分の学習スタイルを持った学習者が少ない。

以上、教員へのアンケートでは、上記のような結果となった。ネパール人学習者への厳しい意見が多く並んだが、筆者が実際にネパール語などの外国語を学んだ場合、スムーズにマスターできるであろうか。自信がない。

これまで、2023年度に本学留学生別科のネパール人学習者に実際に教えた日本語教師の感想を述べてきたが、一方、ネパール人学習者は、本学での日本語学習について、どのよ

うに感じているのであろうか。

5-2. ネパール人学習者への質問

それでは、アンケートに協力してくれたネパール人学習者21人（2Aクラス13人、2Bクラス8人）のアンケート結果について述べる。ここでお断りしておくが、ネパール人学習者全員の結果ではなく、調査に協力してくれた学習者のデータからわかることを、ここに記述する。

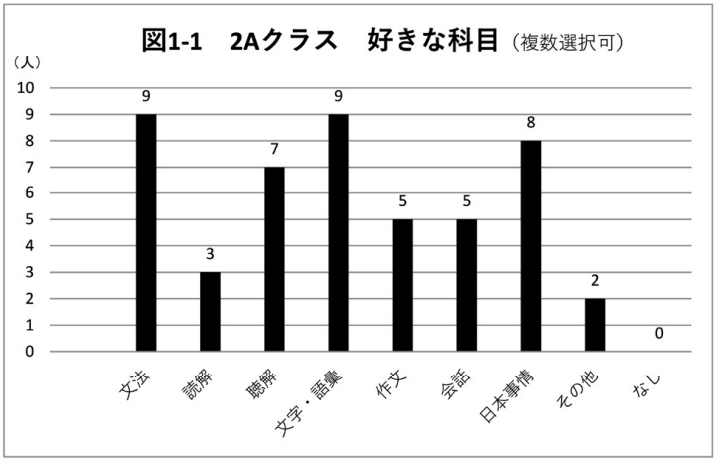
(1) 好きな科目

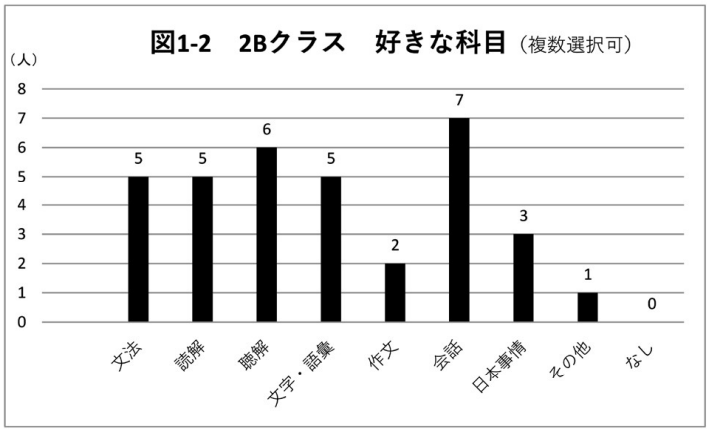
まず、ネパール人学習者の好きな科目は何であろうか。2Aクラスのネパール人学習者の好きな科目は、1位文法、文字・語彙、3位日本事情であった。一方、2Bクラスのネパール人学習者の好きな科目は、1位会話、2位聴解、3位は文法、読解、文字・語彙の3つの科目であった。

同じネパール人学習者であるが、上位レベルの2Aクラスと下位レベルの2Bクラスでは、好きな科目に大きな相違が見られた。

下位レベルの学習者は、ネパール人学習者が得意な会話、聴解が好きなのに対して、上位レベルの学習者は、文法、文字・語彙など、どちらかと言うと、苦手な科目が好きだというのは、意外であった。

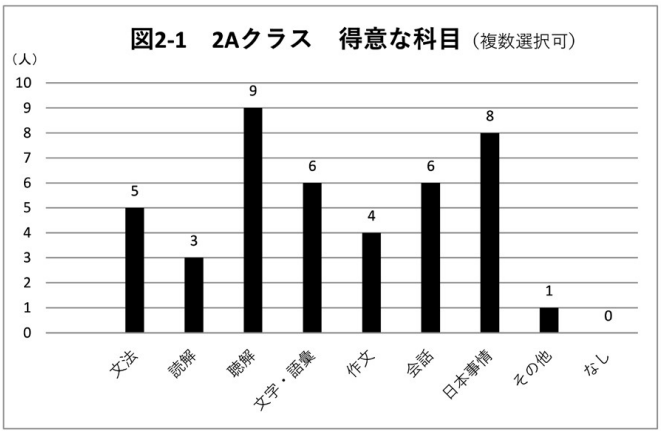
2Aクラスの学習者が文法、文字・語彙が好きな理由としては、「知らないことを学ぶことができるから」「日本語が上手になるから」「先生達から学んだことがわかりやすいから」等々、苦手ではあるが、学べば学習者自身日本語が上手になり、役に立つので好きなようである。一方、2Bクラスの学習者が好きな理由としては、「コミュニケーションをとるのが好きだから」「私にとって易しいから」等々、会話、聴解は、学習者自身にとって取り組みやすいという理由で好きなようである。

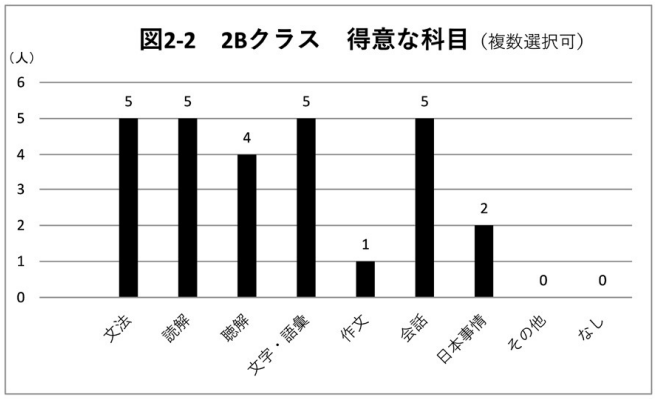




(2) 得意な科目

次に、得意科目であるが、2Aクラスは１位聴解、２位日本事情、2Bクラスは、文法、読解、文字・語彙、会話の４科目が１位であった。2Aクラスでは、日本事情は好きであり、得意でもあるという結果であったが、他の科目、例えば文法は好きであるが、得意ではないというように、好きな科目と得意な科目が異なるという結果であった。「好きこそ物の上手なれ」とは言うものの、文法に関しては、2Aクラスのネパール人学習者にとって、それほど簡単ではないようである。一方、2Bクラスは、好きな科目はいずれも得意であった。

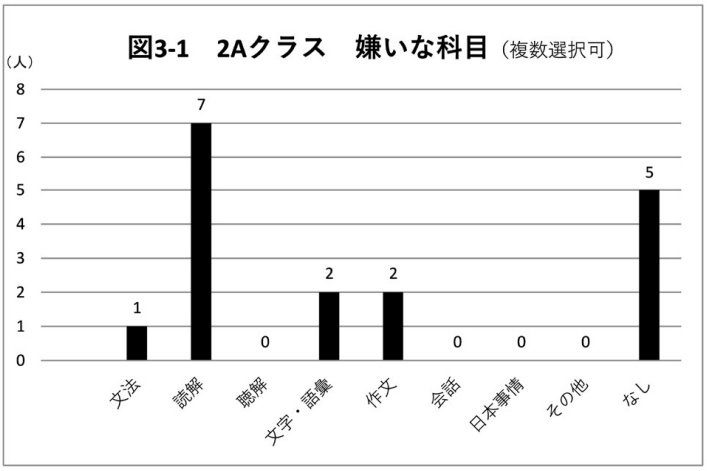


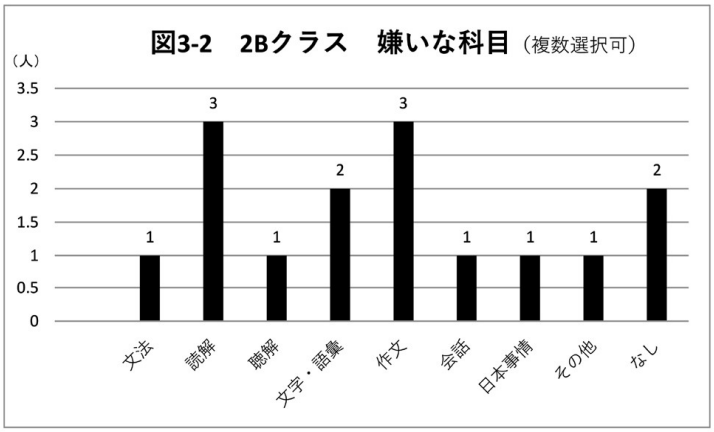


(3) 嫌いな科目

それでは、嫌いな科目はどのような科目であろうか。2A クラスは 1 位が読解であり、2 位が「なし」であった。一方、2B クラスは、他の科目との差はわずかであるが、読解と作文が 1 位であり、文字・語彙、「なし」が 3 位であった。予想通り、いずれのクラスも読解が嫌いなようである。2A クラスの嫌いな理由は、「漢字が難しい」「大変な言葉がたくさんあるのでわかりにくい」、2B クラスは、「漢字が難しい」「作文は長いし、読むのが嫌いだから」と、いずれのクラスも漢字が理解への障害になっているようである。

しかし、両クラスとも嫌いな科目が「なし」の学習者もいた。必ず、好きな科目があれば、嫌いな科目もあるかと思われたが、意外な結果だった。嫌いな科目が「ない」ことはいいことである。





(4) 苦手な科目

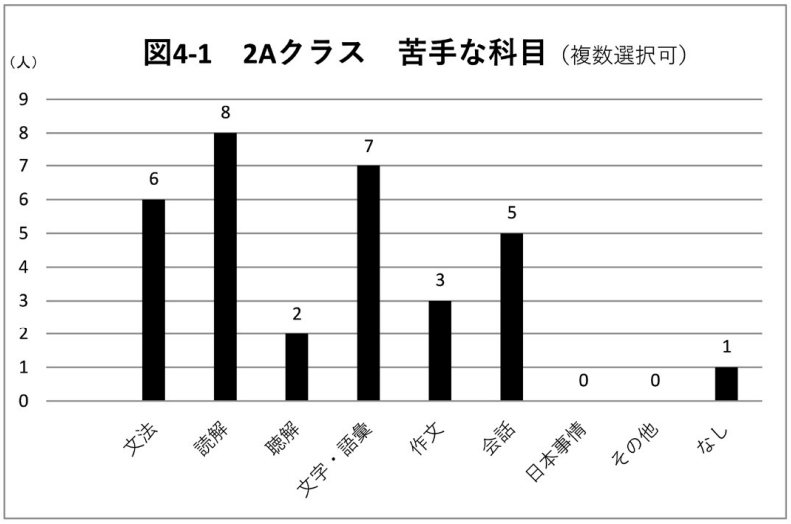
また、苦手な科目はどんな科目であろうか。2A クラスでは、1 位読解、2 位文字・語彙、3 位文法であり、2B クラスは、1 位作文、2 位が文法、読解、文字・語彙であった。2A クラス、2B クラスいずれも読解、文字・語彙、文法が苦手であるという結果が出た。

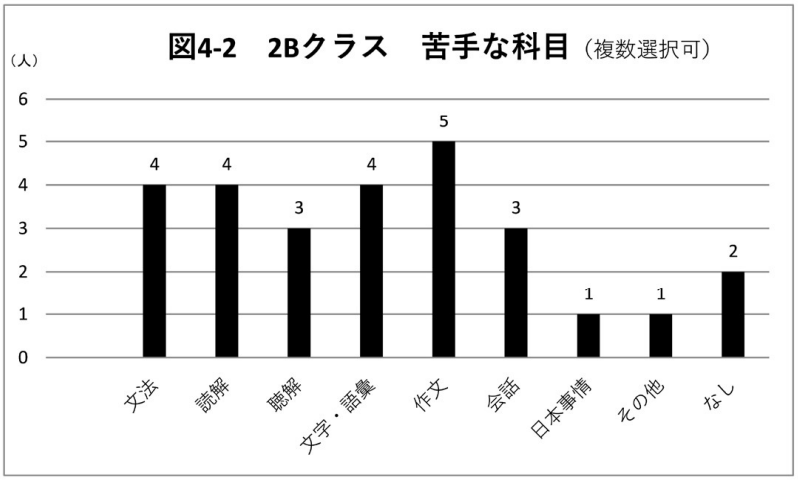
読解は、嫌いな科目であるとともに、苦手な科目でもある。ネパール人学習者にとっては、最も難しい科目であると言えよう。しかし、日本の大学、専門学校へ進学するためには、JLPT（日本語能力試験）のN2以上に合格しなければならないので、読解は克服しなければならない科目である。

2Bクラスは、文法、読解、文字・語彙を「得意」とも回答しており、矛盾する。「苦手」の意味を誤解して回答した可能性もある。

いずれにしても、日本語の文字・語彙、特に漢字は苦手なようだ。日本語のレベルが上がるにつれて、日本語を理解する上での基礎となる「漢字」が読めないので、文法も読解も理解するのが難しくなる。非漢字圏の学習者の特徴とも言えよう。

それから、つい見逃しがちであるが、ネパール人学習者は話し好き、おしゃべりというイメージがあるが、会話や聴解を苦手としている学習者もいる。授業中、ついよく話す学習者、よく発言する学習者に目を奪われがちであるが、静かでおとなしい学生もいる。





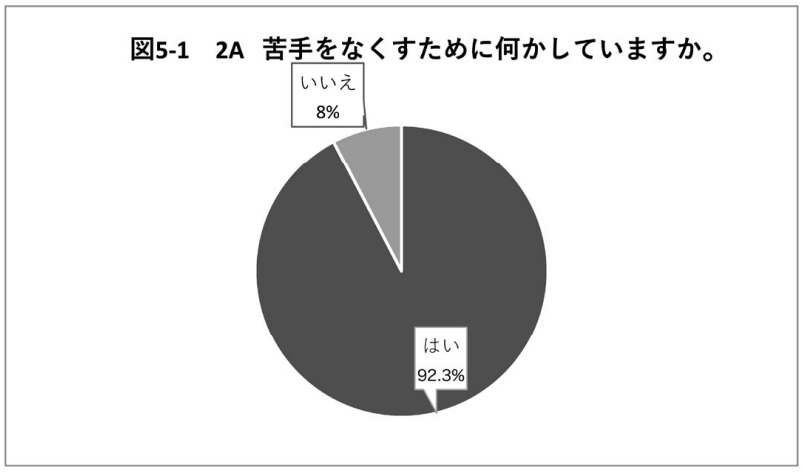
(5) 苦手な科目をなくすために

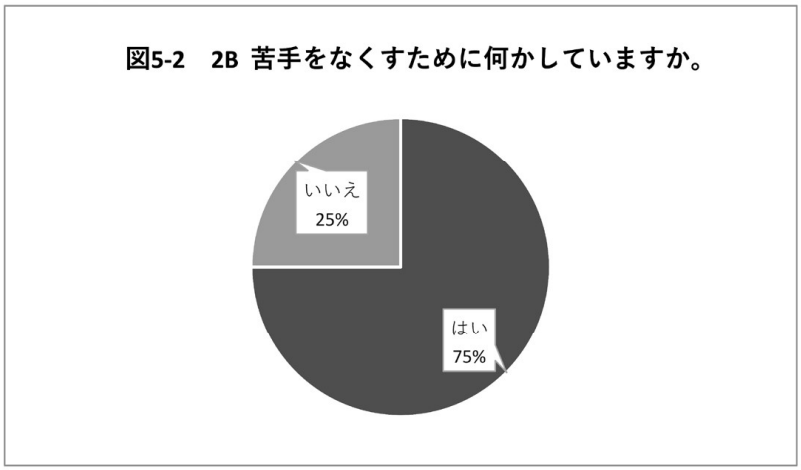
ネパール人学習者は、読解、文字・語彙、文法等を苦手科目としているが、その「苦手科目をなくすために何かをしていますか」の問いに、2Aクラスの92.3%の学生が、2Bクラスの75%の学生が「はい」と回答している。

具体的には、2Aクラスでは、「漢字を覚えるように練習する」「もっと漢字の勉強をする」「毎日勉強する」「一生懸命勉強する」等の努力をしている。

また、会話が苦手な学習者は、「自分で話す練習をし、友達と話す時も日本語で話すようにする」、聴解が苦手な学習者は、「アニメを見て練習をする」と、苦手を克服するために真摯に努力をしているようである。

一方、2Bクラスも「漢字をたくさん練習する」「日本語をもっと頑張る」「もっと練習する」と、苦手な科目をなくすための努力している。



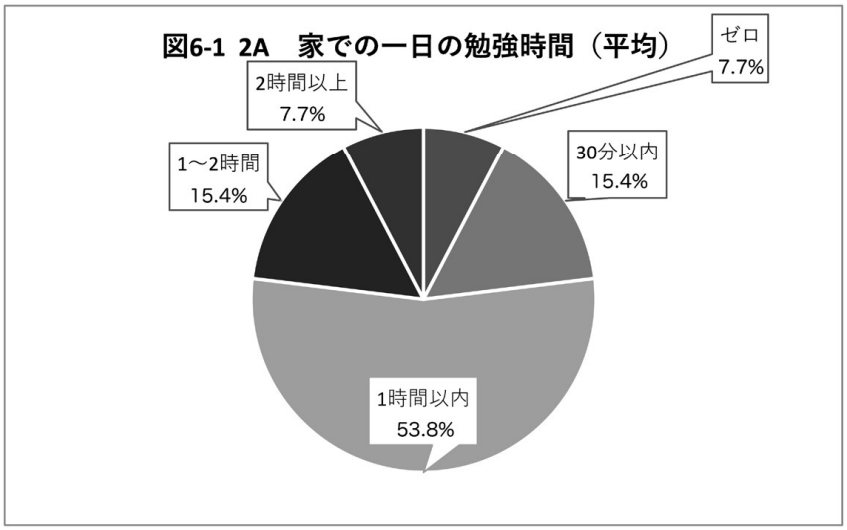


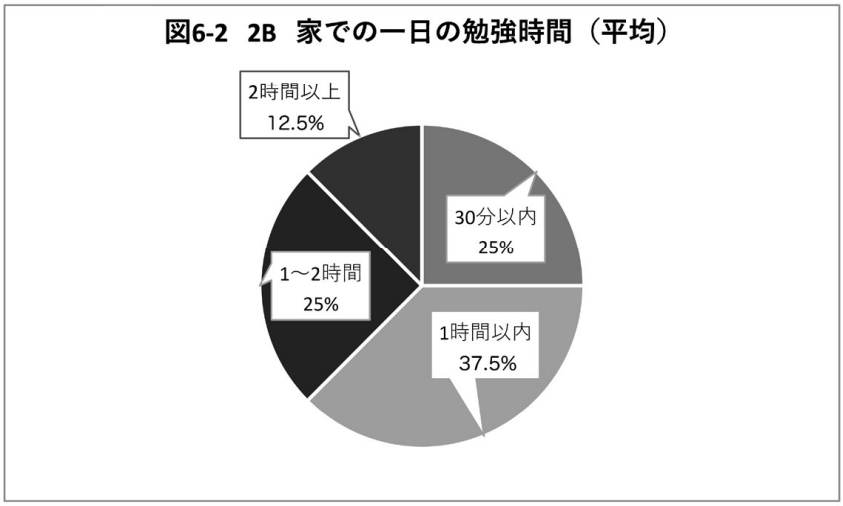
(6) 家での勉強時間

それでは、学校以外に家ではどのくらい勉強しているのであろうか。

2Aクラスの勉強時間は、1時間以内が半数以上の53.8%、30分以内、1～2時間がいずれも15.4%である。それに対して、2Bクラスの勉強時間は、1時間以内が37.5%、30分以内、1～2時間がいずれも25%であった。勉強時間ゼロの学生は、2Aクラスに7.7%いたが、2Bクラスにはいなかった。

学校で約3時間勉強し、家での勉強を合わせると1日4時間ぐらい勉強をしているようである。ネパール人学習者は、アルバイトをしながら勉強しているが、日本語能力試験N2に合格するためには、家での勉強をもう少し増やしたほうがよさそうである。漢字圏の中国人学習者と比較して、漢字の勉強に時間が取られるネパール人学習者は、別科に在籍している2年間は、集中して日本語の勉強をすべきである。





(7) 家での勉強内容

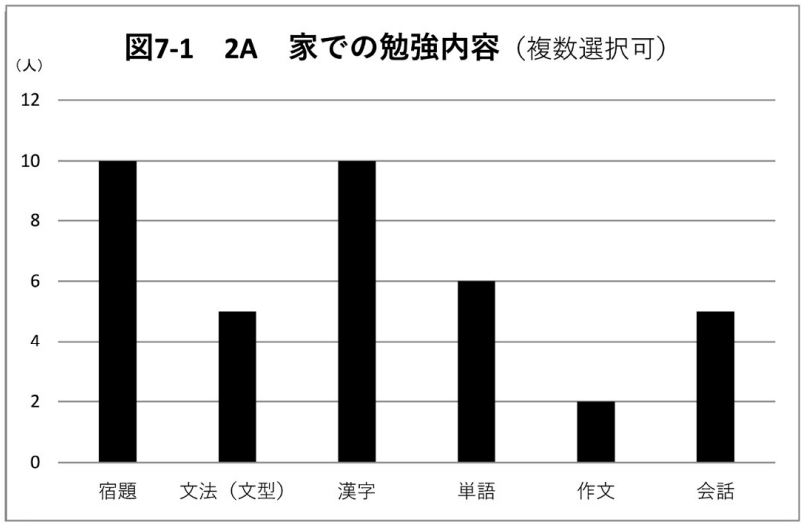
家では具体的に何を勉強しているのであろうか。2Aクラス、2Bクラスともに、最も多

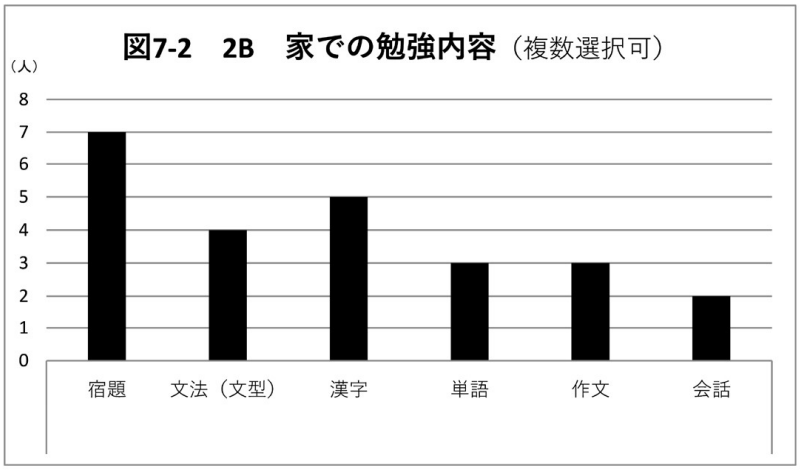
かったのは宿題であり、続いて漢字が多かった。宿題は週に4コマある文法が中心だろうと思われる。教員は自分の担当する科目にしか目が行かないが、学習者はさまざまな科目の教員から宿題を与えられるに違いない。毎日、授業のプリントだけでもかなりの枚数になるのではないかと思われる。

そのプリントもきれいに整理してファイルしている学習者は、日本語の成績もよい。きちんと整理されていない学生は、頭の中も整理されていない。

また、ネパール人学習者が苦手とする漢字の勉強をしないことには、日本語の勉強について行けないので、漢字の勉強はせざるを得ない。

宿題、漢字のほか、2Aクラスは、単語、文法（文型）、会話の勉強を、2Bクラスは、文法（文型）、単語、作文の勉強をしている。いずれのクラスも宿題、漢字を主に勉強しているが、2Aクラスでは会話、2Bクラスでは作文の勉強をする学習者が多かった。





(8) 名古屋芸術大学留学生別科で日本語を勉強した感想

2023年3月の1年課程の修了に続き、2024年3月にはネパール人学習者が多数を占める

2年課程初の修了式が行われた。ネパール人学習者の本学留学生別科での2年間の勉強は概ね好評であり、その感想は以下のとおりである。

・日本語の勉強がとてもいいし、見学とか音楽について様々なことを知ることができて最高だった。
・先生たちがとても優しくて学校もいいです。
・大学はスピーチコンテストなどのさまざまな種類の機会を提供し、さまざまな場所に旅行します。
・とても楽しかった。
・おもしろかった。

入学当初、芸術よりも日本語の勉強をしたいと言っていたネパール人学習者もいたが、実際に美術、デザインの授業では、作品を制作し、音楽の授業では、楽器の体験などをして満足したようである。他大学の留学生別科ではできない貴重な体験は、今後の財産になると思われる。また、お祭りなど楽しいことが大好きなネパール人学習者は、「四季折々の旅」など、普段の勉強とは違う経験も満足につながったようである。

5-3. ネパール国内の教育

これまで、名古屋芸術大学留学生別科で教えられた教員、ネパール人学習者へのアンケート結果を見てきた。教員から見たネパール人学習者の特徴、弱点、日本語力を向上させる方法、また、ネパール人学習者の日本語学習等、本学留学生別科におけるネパール人学習者の実態を述べてきた。

これは、日本における、本学留学生別科におけるネパール人学習者の実態であるが、その特徴を裏付ける背景となる母国ネパール国内におけるネパール人学習者は、どのような教育を受けてきたのであろうか。引田（2019)、引田（2022）が詳しいので、これをもとに記述する。

(1) ネパールの学校

ネパールは、日本の小学校から高校までに相当する1クラス～12クラスがあり、日本に留学するためには、12クラスまで修了している必要がある。しかし、ほぼ同じ年齢で卒業する日本の高校とは異なり、ネパールは希望者ほぼ全員が、しかも同じ年齢で12クラスを修了できるわけではない。

公立学校は学費や教材は無償でも、学年が上がる進級の度に入学金を払ったり、部活や補習には別途お金を払ったりする必要があるので、完全無償とは言いがたい。一般的には、私立学校のほうが公立学校に比べ評価が高く、学力的にもレベルが高い学生が多い。都会から遠く離れている、あまり裕福ではない家庭では、人気が高く学費も高い私立学校には通わせることができないため、地域にある公立学校に通わせるしかない。

(2) 試験

中学校卒業や高校卒業の資格を取得するためには、ネパール全土で共通の問題での試験が行われる。試験は重視されており、これらの試験で将来が決まる。試験さえできれば、授業態度や出席率は問われない。試験は記述式であり、誰もカンニングしようとしないし、そもそもカンニングできない。

日本国内ではネパール人学習者のカンニングが問題になることがあるが、彼らにとってマーク式、選択式の日本の試験は簡単すぎるため、カンニングの機会を与えているようである。また、ネパールの試験は、1つの教科の点数が35%を超えていれば合格できるので、平均点は関係ない。

日本の教員側から見れば、普段の小テストは、どこまで理解できているのかを把握するために実施しているが、試験が絶対という環境に育った彼らにとっては、小テストであろうとも、結果の点数を気にするのではないだろうか。

(3) 英語

「ネパール人学習者は英語ができる」という印象がある。しかし、出身高校によって違うようである。私立学校のほうが公立学校よりも学力のレベルが高い学生が多いと記述したが、公立と私立の大きな差は英語にある。

公立では、英語以外の授業は全てネパール語で行われる。英語を使う機会はほとんどなく、理解していても使えない。それに対して、私立はネパール語以外の授業が全て英語で行われるだけでなく、学内では生徒同士でも英語で会話することがルールになっており、それを破れば罰があるほど、厳しく定められている。

「ネパール人学習者は英語ができる」との認識のもと、ネパール人学習者には、ネパール語翻訳のある日本語教材がごくわずかしかないので、本学でも、安易に英語翻訳のある教材を渡していたが、それは間違いであった。入学時に渡した文法書も使用している様子が窺えない理由が理解できた。また、「この言葉の意味は何ですか」と質問してくる学生が多いが、教員に聞いたほうが簡単だからという理由ではなく、調べる手立てがないのかもしれない。怠け者ではなく、熱心な学生だからこそ、質問をしている可能性もある。

(4) 宿題

試験に合格することが重要であるために、ネパールでは宿題はかなり重要視されている。日々の宿題の量はかなり多く、そこに時間を割かれることから、授業後に予習、復習に取り組むのは難しく、その習慣もない。普段の授業では、せめて単語の意味でも調べてほしいと思っているが、ネパールでは予習の習慣がない。そのため、日本に来てから予習、復習の習慣をつけさせる必要性がある。

6.　まとめ

ネパール人学習者は、一般的におしゃべりであり、明るく、親しみやすい性格である。日本語力に関しては、初級文法が身についておらず、語彙力が不足しているネパール人学習者が多い。一般的に聴解、会話は得意であるが、文字・語彙、読解が苦手である。

その原因としては、文字を見て理解する力が弱いので、漢字が苦手である。聞いて覚える「耳学習」の学習者が多く、文字を読んで理解する勉強方法に慣れていないのである。日本語の理解において、漢字が大きな障害となっている。初級はまだしも、初中級以上になると授業の理解が難しくなる。レベルが上がるにつれて漢字が障害となり、日本語力が伸びない。特に、漢字が多く使用されている読解を苦手とする。

10年前の中国を中心とした漢字圏の学習者と比較すると、ネパール人学習者は、文字・語彙を習得するのに多くの時間がかかる。つまり、大学に入学するのに必要な日本語能力試験のN2に合格するには、相当の時間を必要とするのである。それゆえ、これまでの漢字圏を中心としたカリキュラムを変更する必要がある。特に、文字・語彙の授業時間を増やすとともに、ネパール語翻訳のある教材の出版も望まれる。英語版、中国語版等の文法書は多く存在するが、ネパール語翻訳のある文法書を含めた教材は、『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）等わずかな教材しかない。その点を考えると、中国人学習者、韓国人学習者と比較して、ネパール人学習者が日本語を勉強する環境は全く整っていないと言える。

また、ネパール人学習者は「英語ができる」と思い込んでいたが、それはネパールの私立学校出身者に限られるので、日本語教師自身が認識を変える必要がある。中国版、韓国語版等の翻訳のある教材が豊富な国の出身者とは違うということを教員は十分に理解する必要がある。ネパール人学習者の表面的な状況だけを見て判断するのでなく、その背景となるものをしっかり把握する必要がある。

ネパール人学習者自身も、「文法」をするにしても、「読解」をするにしても、日本語の基礎となる「文字・語彙」、特に漢字を習得することなく、日本語力を上げるのは難しいことを認識している。日本語力のレベルの高い学生ほど、そのための努力をしている。

表4-1　2A　2023年度後期　JLPTの成績　2024.1.24実施

順位	名　前	JLPT　N3　（%）			
		文法・読解	聴解	文字・語彙	平均
1	2A07	84.6	88.9	66.7	80.1
2	2A15	76.9	92.6	63.6	77.7
3	2A18	74.4	85.2	57.6	72.4
4	2A10	59.0	77.8	57.6	64.8
5	2A04	64.1	74.1	45.4	61.2
6	2A16	43.6	81.5	54.5	59.9
7	2A06	46.2	74.1	54.5	58.3

8	2A17	41.0	70.4	57.6	56.3
9	2A02	38.5	70.4	48.5	52.5
10	2A05	28.2	88.9	36.4	51.2
11	2A03	41.0	70.4	39.4	50.3
12	2A12	28.2	55.6	60.6	48.1
13	2A11	43.6	66.7	30.3	46.9
14	2A01	30.8	66.7	42.4	46.6
15	2A09	43.6	59.3	36.4	46.4
16	2A08	43.6	63.0	30.3	45.6
17	2A14	33.3	51.9	21.2	35.5
平　均		48.3	72.8	47.2	56.1

＊JLPT 対策の授業で使用した模擬試験の結果である
＊100 点満点中の％を表す。

表 4-2　2B　2023 年度後期　JLPT の成績　2024.1.23 実施

順位	名　前	JLPT　N3　（%）			
		文法・読解	聴解	文字・語彙	平均
1	2B06	48.7	59.3	36.4	48.1
2	2B04	35.9	59.3	33.3	42.8
3	2B16	41.0	48.1	36.4	41.8
4	2B15	48.7	44.4	30.3	41.1
5	2B08	25.6	66.7	30.3	40.9
6	2B01	33.3	59.3	21.2	37.9
7	2B17	38.5	48.1	24.2	36.9
8	2B13	35.9	55.6	18.2	36.6
9	2B02	41.0	40.7	21.2	34.3
10	2B14	30.8	37.0	33.3	33.7
11	2B05	25.6	48.1	24.2	32.6
12	2B18	28.2	40.7	27.2	32.0
13	2B07	25.6	44.4	21.2	30.4
14	2B03	23.1	44.4	21.2	29.6
15	2B12	33.3	33.3	21.2	29.3
16	2B10	35.9	33.3	9.1	26.1
17	2B09	23.1	25.9	21.2	23.4
18	2B11	12.8	22.2	21.2	18.7
平　均		32.6	45.0	25.1	34.2

＊JLPT 対策の授業で使用した模擬試験の結果である
＊100 点満点中の％を表す。

表 4-1、表 4-2 は、本学における 2023 年度後期の「JLPT 対策」期末試験での結果である。レベルの高い 2A クラスも、レベルの低い 2B クラスも同じN3 の模擬試験の問題を利用したが、その内訳は少し異なる。2A も 2B も「聴解」が最もでき、次に「文法・読解」ができている。しかし、2A では、2 番目に「文字・語彙」ができている学生が、2B に比較して多い。それだけ、日本語力の高い学生ほど、苦手な「文字・語彙」の勉強に力を注いでいることが理解できる。

本留学生別科でも週4日は毎日漢字の小テストを実施し、漢字に触れる機会を多く設け、できるだけ漢字への抵抗感が少なくなるように努めている。しかし、読解力をつけさせるための、語彙力の強化が不足している。

ネパール人学習者に対してだけではないが、日本語力を向上させるには、少しでも学習者の進歩があれば「ほめる」ことが大切である。また、理解ができていなければ何度も繰り返し学習させる。それから、ネパール人学習者に対しては、基本中の基本である「五十音」をマスターさせる。正しい「ひらがな」「カタカナ」が書けるようにすることが、ひいては日本語力を上げていくための基礎となるのである。

7. おわりに

近年、ネパール人学習者など非漢字圏の学習者が増加しているが、日本語を学ぶ上で漢字が大きな障害となっている。しかし、漢字は表意文字であり、理解できれば、これほど便利な文字はない。ネパール人学習者が日本語力を上げていくためには、漢字の習得は必要不可欠である。

今後は、漢字を苦手とするネパール人学習者のために、少しでも役に立つ漢字の研究を進めていきたい。

謝辞

本研究に協力していただいた留学生別科の教員および学生の皆さんに感謝いたします。

参考文献

岩切朋彦「『働く留学生』をめぐる諸問題についての考察（2）」『鹿児島女子短期大学紀要』54、2018年

外務省「ネパール（Nepal）基礎データ」（https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/data.html#section1　2024年6月25日閲覧）

嘉手川隼「沖縄県内の日本語学校におけるネパール人学習者の現状と特徴について-A日本語学校の事例を中心に-」『地域文化論叢』17、2016年

公益社団法人日本ネパール協会編『現代ネパールを知るための60章』明石書店、2023年

引田梨菜「ネパールにおける日本語教育の実態－聞き取り調査を通して－」『日本語教育研究』65、東京、2019年、210-218

引田梨菜『ネパール語話者に教える　日本語教師読本38』Webjapanese.comブックレット、2022年